

団体名		公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団						
①	指 標 名	お客様満足度の向上			目 標 値	実績 値	①体育施設事業90.8% ②プレイス95.8% ③吉祥寺図書館83.9%	
	過 去 の 実 績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	運 成 率	66.6%	運 成 状 況	未達成
	(単位: %)	体育施設事業92.4% 武蔵野プレイス満足度93.4%	体育施設事業92.6% 武蔵野プレイス満足度91.8%	体育施設事業91.9% 武蔵野プレイス満足度96.5% 吉祥寺図書館86.3%				
	取 組 内 容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 体育施設ではスポーツ教室・イベントすべてにおいてアンケートを実施している。「満足度」だけでなく「初参加者の割合」「出席率」「応募倍率」「身体・生活に良好な変化があった人の割合」「交流の広がりがあった人の割合」「活動の継続を希望する人の割合」「参加者の負担率」「非営利組織による同様事業の実施状況」「営利団体による同様事業の実施状況」「情報取得源」など多岐にわたる観点から事業評価を行い得点化して事業の見直しを常に実施している。武蔵野プレイス及び吉祥寺図書館でも同様の分析を行い高い評価を得ているが、事業参加者以外の来館者の声を重視してモニタリングの総合満足度を目標値としている。						
	一 次 評 価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 体育施設事業はここ数年安定して9割以上の満足度を得ている。施設の老朽化によるハード面での不満の声は多くなっているものの、ソフト面としての事業のアンケートでは高い満足度を得ている。武蔵野プレイス及び吉祥寺図書館においてもモニタリングで9割前後の満足度を得ており、令和元年度の利用者也、新型コロナウイルス感染拡大による休館前までは昨年度とほぼ同数となっている。						
二 次 評 価	体育施設事業については、施設の老朽化という課題がある一方で、アンケートに基づいて多岐に渡る観点から常に見直しに努め、ソフト面での事業充実を図ることで高い満足度を得ている点、また、武蔵野プレイスについても、モニタリングの総合満足度が9割以上と高くなっている点のいずれも評価できる。平成30年度から新たに指定管理となった吉祥寺図書館についても、高い満足度を得ているが、コロナ禍における利用者のニーズ把握を行いながら、事業の実施方法の工夫により、さらなる利用者の満足度の向上に努めていただきたい。							
②	指 標 名	自主財源の確保			目 標 値	参加料収入等 41,000千円	実績 値	37,381千円 (25,764千円)
	過 去 の 実 績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	運 成 率	91.2%	運 成 状 況	未達成
	(単位: 千円)	45,836千円 (34,924千円)	44,102千円 (34,015千円)	42,758千円 (31,120千円)				
	取 組 内 容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 自主財源は「基本財産受取利息」＋「参加料」＋「業務委託収益(収益事業)」である。(カッコ内の数値は参加料のみ) 基本財産は預金だけでなく安全性を第一に運用しており、参加料についても受益者負担と公益性を考慮し適正な金額を設定している。体育施設におけるラグビーワールドカップ関連の施設利用制限等の影響は最小限にとどめたが、令和2年1月～3月の温水プール工事による休館と3月2日からの新型コロナウイルス感染拡大防止のための全施設の休館・休場は参加料収入に響く結果となった。中期計画に掲げている「収益源の多様化」の検討をする。						
	一 次 評 価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 自主財源の確保は、単に剰余金を貯めるのではなく、安定的な事業運営や事業団の抱える諸課題、利用者の利便性向上のためにも必須であるが、オリンピック・パラリンピックの機運醸成イベント(無料の参加型イベント)等の開催数が増えると、参加料収入は減少傾向となる。公益的事業(目的のある参加費無料の事業)と収益的事業(受益者負担率を考慮した有料事業)についてどのようなバランスが適切なのか、今後検討していく必要がある。また、コロナ禍での事業参加者数の制限等により、参加料の見直しの検討も必要と考えている。						
二 次 評 価	平成28年度から連続して減収となり、令和元年度は目標達成に至らなかったが、これはオリンピック・パラリンピックの機運醸成イベント等公益的事業の増や、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための施設の休館・休場による影響と考えられる。今後は、公益的事業と収益的事業のバランスの検討、自主事業として行っている各種教室等の参加料の見直し、アウトリーチ事業の実施等による財源の確保を検討いただきたい。							
③	指 標 名	コンプライアンスの強化			目 標 値	第2期中期計画 (仮称)の策定	実績 値	実施済み
	過 去 の 実 績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	運 成 率	100.0%	運 成 状 況	達成
	(単位:)	①人材育成計画の策定 ②職員行動指針の策定	ハラスメント規程の整備	個人情報保管状況内部 監査の実施				
	取 組 内 容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 平成30年12月からプロジェクトチームを組織し、指定管理期間である令和2(2020)年度から6(2024)年度までを計画期間とする第2期中期計画を策定した。職層別グループ討議や囑託職員を含む職員意見の募集等を経て、計画案を作成し、理事会の承認を得て策定した。当該計画においては、指定管理者及び公益財団法人としての信頼を揺るぎないものとするために、重点課題から重点目標を設定し、取組みの方向性として内部統制・危機管理等を含めて記載した。						
	一 次 評 価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 各種研修等により情報セキュリティや法令等の遵守に対する職員意識を高めるとともに、内部監査の実施等によるチェックを行うことにより、コンプライアンスの強化を図っていく。なお、取組状況については、理事長や事務局長等をメンバーとする「経営者会議」において評価するとともに、定時理事会にも報告する。						
二 次 評 価	プロジェクトチームの設置や職員意見の募集等を行い、第2期中期計画が策定され、内部統制・危機管理についての取組みが記載されたことを評価する。今後も計画に基づくコンプライアンス強化のための取組みを着実に実施し、市民に信頼される組織づくりを進めていただきたい。							